

眼位による手術時期

超早期手術 6ヶ月以内 恒常性斜視の場合など

早期手術 2歳未満 恒常性斜視の場合など

晚期手術 間欠性斜視など(眼位の安定やXTの場合戻りを考慮して)

	1)内斜視	2)外斜視	3)上下斜視	4)眼筋麻痺
超早期手術	乳児内斜視(本態性乳児内斜視) 結論は得られていない			
早期手術	乳児内斜視(本態性乳児内斜視) 正常両眼視を得ることはまれだが、恒常性である為	恒常性外斜視		
晚期手術	非屈折性調節性内斜視 二重焦点眼鏡の継続不可能例 非調節性輻湊過多型内斜視 感覚性内斜視 術後に外斜視に移行することが多いのと弱視・両眼視の治療目的でもない。	間欠性外斜視 但し斜視角が大きく、斜視の時間が長い場合、いじめなどを考え、就学前。一般的には局所麻酔がOKになってから。 感覚性外斜視 外斜視に戻ることも多いのと、弱視・両眼視の治療目的でもない。		
斜視角が固定した時期	後天内斜視 眼鏡装用後、残余分が安定したら 非調節性(基礎型)内斜視 周期性内斜視 急性内斜視		交代性上斜位 水平斜視と合併していることが多いので斜視角をよく見極めてから	下直筋 fibrosis } 傾け(顔面非対称・脊椎側湾となる)以外の頭位異常があってもP.Pで斜視がある場合 Duane 症候群 } 頭位異常が無い恒常性の眼筋麻痺 発症後6ヶ月は自然治癒の可能性があるので経過観察し、その後
診断が確定した時期				先天性上斜筋麻痺 } 頭の傾けのあるものは顔面非対称や脊椎側湾が多くなるので診断が確定したらすぐに Brown 症候群 }